



TITLE:

第1章 2013年度京都大学構内遺跡調査の概要

AUTHOR(S):

吉川, 真司; 千葉, 豊; 内記, 理

CITATION:

吉川, 真司 ...[et al]. 第1章 2013年度京都大学構内遺跡調査の概要. 京都大学構内遺跡調査研究年報 2015, 2013: 1-4

ISSUE DATE:

2015-03-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/226471>

RIGHT:

京都大学構内遺跡調査研究年報 2013年度

- 第1章 2013年度 京 都 大 学 構 内 遺 跡 調 査 の 概 要
- 第2章 京 都 大 学 吉 田 南 構 内 A N 21 区 の 発 掘 調 査
- 第3章 京 都 大 学 病 院 構 内 A F 17 区 の 発 掘 調 査
- 第4章 京 都 大 学 病 院 構 内 A H 13 区 の 発 掘 調 査
- 第5章 自 家 発 電 設 備 設 置 に か か わ る 発 掘 調 査 お よ び 立 合 調 査

第 1 章 2013年度京都大学構内遺跡調査の概要

吉川真司 千葉 豊 内記 理

1 調査の経過

京都大学文化財総合研究センターは、吉田キャンパスおよび附属施設の敷地内における建物の新営やそのほかの掘削工事に際し、予定地の埋蔵文化財調査を、既知の遺跡との関係や過去の調査結果により、発掘・試掘・立合にわけて実施している。2013年度には、以下のように発掘調査9件、立合調査21件を実施した（括弧内は図版1および表1の地点番号）。

発掘調査	自家発電設備新営（本部構内A Z 30区）	（第5章，図版1－397）
	総合先端基盤研究棟新営（病院構内A H13区）	（第4章，図版1－398）
	京都大学（中央）学生寄宿舍吉田寮新棟新営（吉田南構内A M21区）	（整理中，図版1－399）
	自家発電設備新営（医学部構内A O20区）	（第5章，図版1－400）
	京都大学学生集会所新営（吉田南構内A M21区）	（整理中，図版1－401）
	自家発電設備新営（北部構内B F32区）	（整理中，図版1－402）
	自家発電設備新営（本部構内A T21区）	（整理中，図版1－403）
	国際科学イノベーション拠点施設新営（本部構内A U28区）	（整理中，図版1－404）
	自家発電設備新営（北部構内B A28区）	（第5章，図版1－405）
	自家発電設備等設置工事（学術情報メディア北館）（本部構内A Z30区）	（第1章，図版1－406）
立合調査	国際科学イノベーション機械設備工事（本部構内A V27区）	（第1章，図版1－407）
	国際科学イノベーション電気設備工事（本部構内A U27区）	（第1章，図版1－408）
	総合研究棟（旧医学部F棟）改修その他工事（医学部構内A P20区）	（第1章，図版1－409）
	学術情報メディアセンター北館改修電気設備工事（本部構内A Y30区）	（第1章，図版1－410）
	総合研究棟（旧総合解剖センター）改修その他工事（医学部構内A P20区）	（第1章，図版1－411）
	自家発電設備新営（医学部構内A L17区）	（第5章，図版1－412）
	自家発電設備新営（医学部構内A N17区）	（第5章，図版1－413）
	高压受変動設備等工事（北部構内B G36区）	（第1章，図版1－414）
	給水センター・薬草園等移設工事（病院構内A I12区）	（第1章，図版1－415）
	吉田食堂厨房排水除害施設にかかわる工事（吉田南構内A P21区）	（第1章，図版1－416）

2013年度京都大学構内遺跡調査の概要

高圧受変動設備等工事（北部構内B K30区）	（第1章，図版1－417）
自家発電設備新営（医学部構内A M20区）	（第5章，図版1－418）
自家発電設備新営（病院構内A G11区）	（第5章，図版1－419）
自家発電設備新営（病院構内A J14区）	（第5章，図版1－420）
合宿型研修施設（Ⅱ期）新営その他工事（医学部構内A P16区）	（第1章，図版1－421）
自家発電設備新営（北部構内B G32区）	（第5章，図版1－422）
自家発電設備新営（北部構内B B30区）	（第5章，図版1－423）
自家発電設備新営（医学部構内A P20区）	（第5章，図版1－424）
屋外污水管改修工事（医学部構内A P17区）	（第1章，図版1－425）
本部構内街灯工事（本部構内A Z30区）	（第1章，図版1－426）
資料整理 国際人材交流拠点新営（吉田南構内A N21区）	（第2章，図版1－378）
総合高度先端医療病棟新営（病院構内A F17区）	（第3章，図版1－385）

2 調査の成果

前節で掲げた調査のうち、2013年度に整理を終えたものについて、その成果を略述する。なお、吉田南構内A N21区、病院構内A F17区、病院構内A H13区の発掘調査については、それぞれ第2章～第4章において、また、本部構内A Z30区、医学部構内A O20区、北部構内B A28区の発掘調査については、第5章において、その成果を詳述しているので参照されたい。

吉田南構内A N21区 調査地点は、吉田南構内の西南部にあり、吉田二本松町遺跡に含まれる。白川扇状地の西縁部に立地する。調査の結果、時代ごとに以下のことが明らかになった。まず、縄文時代については、晩期中葉の土器1個体分の破片集中部が確認された。また、弥生時代については、中期後半の方形周溝墓1基が検出された。そして、古墳時代については、埴輪をともなう古墳を含む、中期の方形墳2基がみつかった。また、中世については、南北にはしる溝群・井戸・水溜・土坑・埋甕・土器溜・陶器溜・石室の可能性のある集石などが検出された。そして、近世については、農作業にかかわる杭群が確認された。

本調査で特筆すべき点は、今回検出された古墳時代の8号墳が、これまでに周辺でみつかった7基の方形墳に比べて、規模が大きい点である。多数の埴輪が出土した点にも注目される。朝顔形埴輪を含む多数の円筒埴輪のほか、人物埴輪・馬形埴輪・家形埴輪の各1点からなる形象埴輪がみつまっている。他の古墳とは、明らかに位置づけが異なることがみてとれよう。

調 査 の 成 果

もう1点注目すべき点は、中世の遺物の出土状況である。中世1期の、水溜と考えられる遺構S E 9からは、めずらしい物品である華南三彩盤が出土した。また、多数の遺構から乙訓地域で産出された土師器がみつかった。一方、中世2期の土器溜には、土師器のなかに、灯火のためのものが少なくとも1つは含まれていた。夜間に飲食がおこなわれ、終了とともに飲食に用いられた土師器がまとめて廃棄されたと想定される。中世の吉田地域には、多数の貴族の邸宅が営まれていたと考えられる。今回の調査地点にも、いずれかの貴族の邸宅が存在していた可能性が高い。

病院構内 A F 17区 調査地点は、病院東構内の西南隅に位置し、聖護院川原町遺跡に含まれる。調査の結果、調査区の半分程度が攪乱されていたことがわかった。また、調査の最中に、汚染土壌がみつかったが、その除去作業により失われた情報も多い。しかし、東北辺と西辺では、近世後半の遺物包含層が2枚残存することが確認された。そこからは、畑境の段差・区画溝・井戸・鋤溝・杭群などが検出された。中世以前の遺物包含層は残存していなかったが、混礫砂層やシルト層から、まれに中世や古代の土器片がみつかった。本調査地点は、鎌倉時代までは、後背湿地のような淀んだ水域だったようである。中世末期になると、湿地の干拓化が進められ、耕作地が形成されたようである。そして、近世には安定的な環境下で、田畑が営まれた。ただし、調査区西辺においては、近世後半から明治初期にかけての石組み井戸等の居住域を想像させる遺構や土器溜などが確認された。埴塙の破片や、赤色の顔料にかかわる金属水銀が出土した点を考えあわせると、本調査地点が、19世紀に富岡鉄斎が描いた絵図にあらわれる画家・小田海仙の居住域の縁辺部に相当する可能性が高い。

病院構内 A H 13区 調査地点は、病院西構内に位置し、聖護院川原町遺跡に含まれる。鴨川から約200mの地点である。調査の結果、近世の水路・道路・溝・小穴などが検出された。また、近世の土器・陶磁器類を中心に、多量の遺物が出土した。本調査の成果のなかで、重要な点は2点ある。1点目は、近世における聖護院村と吉田村の境界のあり方が、時代とともに変化したことが明らかになった点である。まず、17世紀前半に境界を示す道路が設置された。そして、17世紀後半には、水路が構築された。18世紀中頃までには、道路の位置が水路の北側に移された。19世紀中葉頃には、洪水によって水路が埋まったと考えられる。もう1点は、幕末期に、本調査地点が整地された可能性が高いことが示された点である。幕末にこの地点に設置された練兵場とのかかわりが想定される。

自家発電設備新営にかかわる調査 本年度には、大学構内の14地点で自家発電設備の

設置が計画され、発掘調査と立合調査がおこなわれた。以下に、発掘調査された地点のなかで、とくに重要な知見をもたらした地点について略述する。

本部構内A Z30区の調査地点は、本部構内の東北部に位置し、吉田本町遺跡に含まれる。縄文時代から江戸時代にかけての遺物が出土した。特筆すべき点は、層位のなかで、鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah）の堆積が確認されたことである。また、火山灰層よりも古い土層からは、1点の土器片が出土した。縄文時代早期の遺物である可能性が高い。

医学部構内A O20区の調査地点は、医学部構内の東辺に位置し、吉田橘町遺跡に含まれる。表土の直下で、黄褐色粘土層の上面が検出され、遺物包含層の多くが削平されていた状況が明らかになった。しかし、調査地点の北半では、中世の井戸状の遺構などの深い掘込みの下部が残存していた。本調査地点の南方にある134・248地点や、北方にある74地点で確認された、砂や粘土を採取した遺構とみられる不定形の掘込みは、本調査地点では検出されなかった。中世後半の土器類を中心に、縄文時代から中世にかけての遺物が出土した。

北部構内B A28区の調査地点は、北部構内の西南隅に位置し、北白川追分町遺跡の西端にあたる。調査の結果、周辺の調査地点でも確認されていた、弥生前期の地表面が改めて確認された。また、北方の208地点で検出されていた平安時代以前に遡る流路の南延長が検出された。最も重要な点は、幕末期の土地利用について明らかになったことである。208地点の南端では、土佐藩邸の堀跡がみつかったが、そのすぐ南にある本調査地点では、耕土層の広がり確認された。これはつまり、当時、藩邸の堀と今出川通りの間に耕作地が広がっていたことを示す。出土遺物は、ほとんどが近世の土器・陶磁器であった。

京都大学構内における立合調査 発掘調査以外にも、本年度は多数の立合調査がおこなわれた。それぞれの地点で、各時期の遺物包含層の広がり確認された。なかでも、病院構内A I12区（415地点）で確認された近世の道路・溝は、東方の398地点で検出されたものの延長と考えられ、重要である。また、吉田南構内A P21区（416地点）では、平安時代～室町時代を中心とする時期の包含層が良好に遺存しており、溝とみられる落込みや陶器甕の一括出土など、多数の遺物が出土した。古墳時代の方墳や平安時代の梵鐘鑄造遺構をはじめ、各時期の遺構が濃密に確認されている111地点に西接する位置にあたり、密度の濃い遺構群が西方にも広がっている状況があらためて確認されたといえる。